

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成22年9月2日 (2010.9.2)

【公表番号】特表2003-513295(P2003-513295A)
 【公表日】平成15年4月8日 (2003.4.8)
 【出願番号】特願2001-510881(P2001-510881)
 【国際特許分類】

G 0 2 C 7/04 (2006.01)

G 0 2 C 7/06 (2006.01)

【 F I 】

G 0 2 C 7/04

G 0 2 C 7/06

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年7月9日 (2010.7.9)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 6】 前記各環状領域の幅が直接的に隣接している 1 個以上の環状領域の幅より、約 0.5 mm 乃至約 2 mm 小さいか、約 0.5 mm 乃至約 2 mm 大きく、その曲率半径が直接的に隣接している 1 個以上の環状領域の曲率半径より、約 0.075 mm 乃至約 0.75 mm 小さいか、約 0.075 mm 乃至約 0.75 mm 大きい、請求項 1 に記載のレンズ。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 8】 前記環状領域がレンズにおける凹状の表面部分に備えられている請求項 7 に記載のレンズ。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 13

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 13】 交互に変化している遠視野域および近視野域の各光学屈折力を有する少なくとも 2 個の同心円状で環状の領域を備えており、各環状領域が直接的に隣接している 1 個以上の環状領域のそれより、約 0.5 mm 乃至約 2 mm 小さいか、約 0.5 mm 乃至約 2 mm 大きく、および直接的に隣接している 1 個以上の環状領域の曲率半径より、約 0.075 mm 乃至約 0.75 mm 小さいか、約 0.075 mm 乃至約 0.75 mm 大きい曲率半径を有しており、当該環状領域の間の各接合部分が多焦点型の屈折力領域を含むコンタクト・レンズ。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 22

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 22】 低弾性率材料を含有していて、交互に変化している遠視野域および近視野域の各光学屈折力を有する少なくとも 2 個の同心円状で環状の領域を備えており、各環状領域が直接的に隣接している 1 個以上の環状領域のそれより、約 0.5 mm 乃至約 2 mm 小さいか、約 0.5 mm 乃至約 2 mm 大きく、および直接的に隣接している 1 個以上の環状領域の曲率半径より、約 0.075 mm 乃至約 0.75 mm 小さいか、約 0.075 mm 乃至約 0.75 mm 大きい曲率半径を有しており、当該環状領域の間の各接合部分が多焦点型の屈折力領域を含むコンタクト・レンズ。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

上記のような環状領域を含むレンズにおいて、各環状領域に対応する特定の幅および曲率半径を選択することにより、多焦点型の屈折力遷移領域がこれらの領域の間に形成できることが本発明における予想外の発見である。とりわけ、多焦点型の屈折力遷移領域は直接的に隣接している 1 個以上の環状領域の幅より、約 0.5 mm 乃至約 2 mm 小さいか、約 0.5 mm 乃至約 2 mm 大きい、好ましくは、約 0.5 mm 乃至約 1.25 mm 小さいか、約 0.5 mm 乃至約 1.25 mm 大きい一定の幅を選択すると共に、各領域間の曲率半径の差を約 0.075 mm 乃至約 0.75 mm、好ましくは約 0.075 mm 乃至約 0.75 mm に維持することによりコンタクト・レンズ内に形成できる。